

令和5年度
事業報告書

ともに生きる
豊かな地域社会

社会福祉法人
新居浜市社会福祉協議会

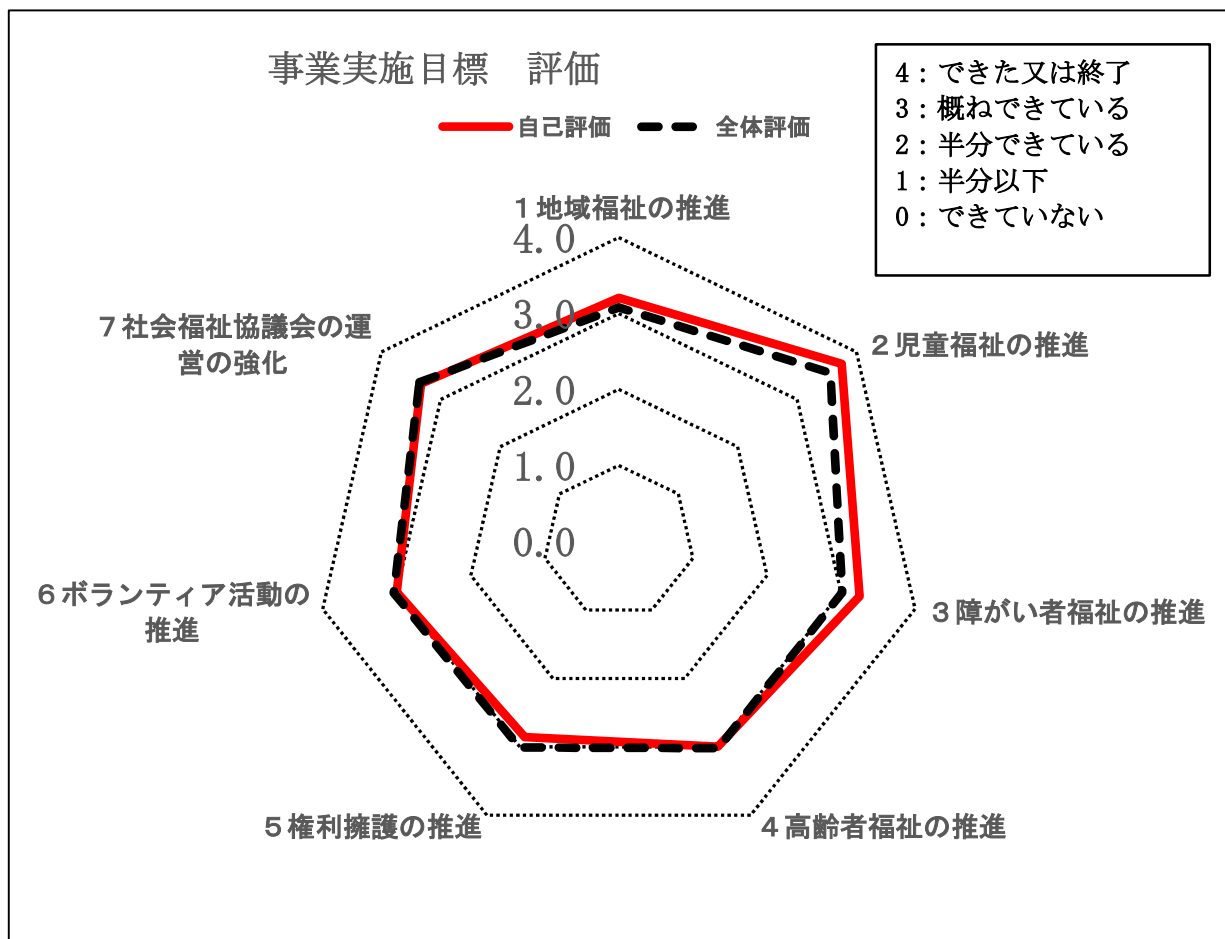
	目	次
概要		・ ・ ・ ・ ・ 1
重点目標結果		・ ・ ・ ・ ・ 3
1 地域福祉の推進		
(1) 小地域福祉活動事業		・ ・ ・ ・ ・ 5
(2) 企画・広報事業		・ ・ ・ ・ ・ 6
(3) 共同募金運営事業		
(4) 民生児童委員協議会連携推進事業		
(5) 福祉施設協議会運営事業		
(6) 地域福祉バス運行事業		・ ・ ・ ・ ・ 7
(7) 地域福祉バス運行事業（別子校区）		
(8) 福祉用具貸与事業		
(9) 日本赤十字社愛媛県支部新居浜市地区運営事業		
(10) 会員制度啓発推進事業		・ ・ ・ ・ ・ 8
(11) まごころ銀行の運営		
(12) 総合福祉センター（本館）管理運営事業		
(13) 総合福祉センター（別子山分館）管理運営事業		・ ・ ・ ・ ・ 9
(14) 地域包括支援センター協力機関業務		
(15) 生き生きデイサービス事業（別子校区）		
2 児童福祉の推進		
(1) 児童館運営事業		・ ・ ・ ・ ・ 10
(2) 児童健全育成事業		・ ・ ・ ・ ・ 11
3 障がい者福祉の推進		
(1) 障がい者福祉センター運営事業		・ ・ ・ ・ ・ 13
(2) 障がい者サロン事業		
(3) 障がい者在宅福祉対策事業		
(4) 地域福祉活動支援センターⅢ型「いぶき」運営事業		・ ・ ・ ・ 14
(5) 生活介護事業		
(6) 児童発達支援事業はげみ園		・ ・ ・ ・ ・ 15
(7) 障がい者居宅介護等事業		
(8) 障がい者等移動支援事業		・ ・ ・ ・ ・ 16
(9) 相談支援事業		
4 高齢者福祉の推進		
(1) 独居高齢者見守り推進事業		・ ・ ・ ・ ・ 17
(2) 高齢者福祉センター運営事業		
(3) 居宅介護支援事業		・ ・ ・ ・ ・ 19
(4) 訪問介護事業		
(5) 認知症対応型通所介護事業		・ ・ ・ ・ ・ 20
(6) 訪問介護事業所職員連絡会運営事業		
5 権利擁護の推進		
(1) くらしの総合相談・支援事業		・ ・ ・ ・ ・ 21
(2) 生活福祉資金貸付事業		
(3) 福祉サービス利用援助事業		
(4) 法人後見事業		・ ・ ・ ・ ・ 22
(5) 生活困窮者自立支援事業		
(6) 緊急食料等支援事業		
(7) 新居浜を明るくする運動推進事業		
6 ボランティア活動の推進		
(1) 福祉ボランティア推進事業		・ ・ ・ ・ ・ 23
(2) 福祉教育、生涯福祉学習		・ ・ ・ ・ ・ 24
(3) 災害ボランティアセンター設置運営事業		・ ・ ・ ・ ・ 25
7 社会福祉協議会の運営の強化		
(1) 理事会・評議員会の運営		・ ・ ・ ・ ・ 26
(2) 財務運営、管理		
(3) 人事管理・人財育成		
(4) 労務管理		
(5) 社協発展・強化、その他計画の策定と進行管理		
(6) 広報活動・広報戦略		

概要

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、日々の活動制限も解除され、徐々にさまざまな活動が再開し、コロナ禍から緩やかな回復が見られました。

少子高齢化や核家族化の進展に伴い、住民相互のつながりの希薄化が顕著となり、地域課題の複雑化やニーズの多様化、また、人口減少による福祉を支えるマンパワー不足など社会環境が変化していくなか、地域福祉の推進主体である新居浜市社会福祉協議会は、地域の生活課題を組織一丸となって受け止め、顔の見える関係を大切に、相談・支援体制の強化を行い、新居浜市や民生児童委員をはじめとする地域の様々な関係機関・団体と連携を図り、地域生活課題の解決のための活動を行うとともに、だれをも排除しない地域社会づくりに取り組みました。

住民一人ひとりが、日々ともに支え合い、生活における楽しみや生きがいを見出し、生活上のさまざまな困難を抱えた場合でも、社会から孤立せず、安心して、その人らしい生活を送ることができる「ともに生きる豊かな地域社会」の実現に向けた活動を展開しました。





生き生き幸せフェスティバル 地域福祉課

4年ぶりに開催し、健康相談やボランティア発表会などに延べ3,000名の参加がありました。



子どもボランティア育成事業 児童施設課

ジュニアリーダークラブ員が街頭募金を行い、募金活動の体験を行いました。



防災講習 障がい者施設課

当事者の方と一緒に防災について学びました。
YURETA(地震体験マット)を体験し実際の揺れを体感しました。



コミュニティ・カフェ 高齢者施設課

地域の高齢者が気軽に集って交流できるよう、無料で飲み物と居場所の提供を始めました。



楽しく外あそび 児童発達支援課

あそびを通して、他者への関わり方を身につけるなど、子どもの特性に合わせた発達を促しました。



業務改善委員会 介護事業課

サービスの質を維持・向上させつつ介護現場の職場環境をより働きやすくするため、介護事業所で委員会を立ち上げました。



支援調整会議 権利擁護課

関係機関との連携を図り、生活困窮者や障がい者(児)の自立支援をサポートしました。



遺贈寄付協定 総務企画課

遺贈寄付を福祉活動に活用するために、地元金融機関等4行と市と本会が協定を締結しました。

重点目標結果

1 地域福祉の推進

地域での会議やイベントに参加し、情報共有を図り、顔の見える関係を大切に連携強化に努めました。地域の個別課題を職員間で共有し、地域が持つ特性を生かし解決できるよう協力しながら支援を行いました。

2 児童福祉の推進

利用者へのあいさつや会話を通して、自らが遊びに行きたいと思える児童館づくりを行い、多くの来館がありました。
情報提供は定期的にホームページやLINEを使い発信しました。
相談業務は、普段の会話や活動時の状況から質問を受けながら対応しました。

3 障がい者福祉の推進

【障がい者施設課】
地域住民と年3回地域交流会を実施し、積極的な交流を図りました。防災に関する研修を当事者と一緒にを行い、緊急時の施設運営について職員間で共有しました。また、社会参加の促進を図るため当事者に対して各種講座を実施しました。

【児童発達支援課】
月1回の研修体制を作り、職員全体のサービスの質の向上に努めました。また、事業継続計画（BCP）を策定することで、感染症まん延時や自然災害時にもできる限り事業を継続できるような体制を整備しました。

【介護事業課】
障害者総合支援法に基づき、在宅の障がい者に対し、居宅において日常生活を営むことができるよう、ホームヘルパーが身体介護（入浴・排泄・食事・通院等の介助）、家事援助（掃除・洗濯・買物・調理等）の居宅サービスを提供しました。
さらに、視覚障がい者に対しては移動時の介助や情報提供に加え、目的地等での代読・代筆等を行うなど社会参加の促進に努めました。
また、コロナ禍での介護サービスの提供が途切れないよう、感染防止対策を講じながらサービスの継続提供を行いました。

4 高齢者福祉の推進

【高齢者施設課】
高齢者福祉センターでは、健康長寿のまちづくりの実現に向け、住み慣れた地域での生活支援の拠点として、高齢者が安心して笑顔で利用できるよう、魅力的な事業の企画・実施を行いました。また、地域に向けて「出張サロン」を積極的に行うとともに、新たに「コミュニティカフェ」を実施し、利用者の増加と満足度の向上につなげました。

【介護事業課】
在宅の要介護状態にある利用者の心身の特性を踏まえて、その能力に応じ、在宅で日常生活を営むことができるよう、定期的に事業所内研修を実施するとともに、他機関が実施する研修会にも参加し、知識・技術を向上させサービス提供を行いました。また、同一法人内で実施している事業所間で情報の共有やカンファレンスを行い、可能な限り在宅生活ができるよう支援に取り組みました。
また、コロナ禍での介護サービスの提供が途切れないよう、感染防止対策を講じながらサービスの継続提供を行いました。

5 権利擁護の推進

相談窓口の拠点として、あらゆる日常生活の相談に応じ、そのなかで本人の尊厳の確保と自立支援を念頭に置いて相談者の課題解決のために、粘り強く伴走支援を行いました。相談者自ら主体的に課題解決に向けて行動するというよりも、支援員が継続的にサポートしながら課題を解決するケースが多く、社協内部や関係機関との連携協力を仰ぎながら相談支援を展開しました。

6 ボランティア活動の推進

ボランティア団体の活動状況や課題を調査し、現状把握を行いました。その結果、広報活動を希望された団体に対し、SNSを活用した支援を行いました。
地域の民生児童委員をはじめ、支部や公民館などに仲介いただき、サポーターの協力を得て実施することができました。

7 社会福祉協議会の運営の強化

事業計画及び事業報告のヒアリングを実施し、事業の進行管理を行いました。

5 S活動で行動習慣を習得し、業務への意識の向上につながりました。

法人全体の課題として経営について協議し、管理職で財政状況の厳しさを共有しました。

実施項目

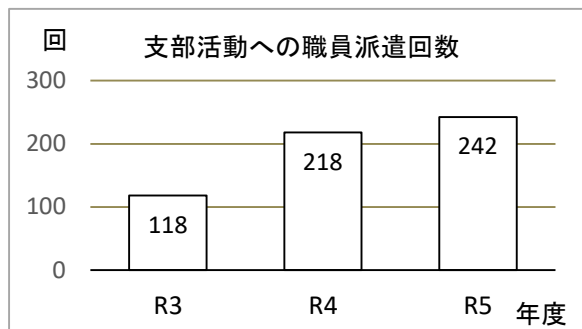
1 地域福祉の推進

(1) 小地域福祉活動事業

①社協支部活動推進事業

地域福祉推進の中核となる社協支部の活動拠点整備、財源確保、組織強化、その他活動支援を行いました。

各支部の活動や会議に参加するとともに、支部連絡協議会やワークショップ形式での全体研修を実施し、支部間でも情報共有が図ることができました。また、支部担当職員が情報共有できるよう月1回、協議をする機会を設け、支援力の向上に努めました。また、共同募金配分金助成を活用し、つながりワーカーの養成に取り組みました。



・会議、研修会など

種別	回数	出席者数	内容
社協支部連絡協議会	6	104	独居高齢者見守り推進事業の在り方、新規特別会員表札の廃止、支部活動と関係機関との連携等
分野別研修	3	57	テーマ別研修、会計研修
先進地研修	0	0	未実施
初任者研修	1	14	市社協と社協支部の活動等説明

②大島校区・別子校区地域福祉活動支援事業

高齢化率の高い、島しょ部・中山間地域に対する地域福祉活動への支援を行いました。

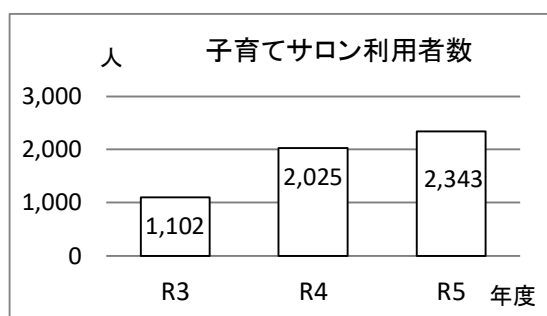
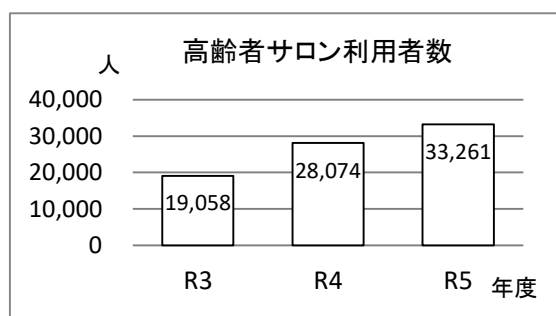
【大島校区】環境美化に関する地域課題が表出されています。調査に出向き、環境、住民の考え方、関係性についても把握することができました。これらを踏まえ、住民、関係機関と協同して解決に向けた協議を行いました。

【別子校区】関係人口創出事業は、十全看護専門学校と児童施設課との連携により実施しました。また、新規事業の企画研究のため研修を受講しました。

③サロン支援事業

地域の高齢者・子育てサロンの内容の充実と普及を行いました。

各種会議等で高齢者施設課、児童施設課の出前講座を広報した結果、サロン活動や地域行事で活用されました。また、支部担当職員も定期的にサロン活動に参加し、実情把握と課題把握を行いました。



(2) 企画・広報事業

愛媛県社会福祉大会参加、社会福祉大会・生き生き幸せフェスティバルを企画、実施することにより、広く地域に福祉の啓発を行いました。

【福祉大会】4年ぶりに市民文化センターで開催しました。参加者数はコロナ禍前に比べて減少しましたが、盛会のうちに終了しました。また、改正した表彰要綱に沿って市内で活躍されている方を表彰しました。

【生き生きフェス】4年ぶりに開催しました。感染症予防のため会場内の飲食禁止、分散集客のため3日間開催し、全体的に規模を縮小しましたが、約3,000名が来場されました。

種別	日程	参加者数	内容
第71回愛媛県社会福祉大会	10月11日	154名	表彰（県知事、県社協会会長ほか） 記念講演「FC今治の挑戦」 (株)今治 夢スポーツ 代表取締役会長 岡田武史氏
第28回生き生き幸せフェスティバル・ボランティアフェスティバル	9月29日 ～ 10月1日	約3,000名	健康相談、ボランティア体験、ボランティア発表会 障がい者施設等製作品販売、ウォークラリーほか
第42回新居浜市社会福祉大会	12月2日	約350名	表彰（市長、市社協会会長） 記念講演「いつかの涙を光にかえて」 トイピアノスト 畑奉枝氏

(3) 共同募金運営事業

赤い羽根共同募金に関する募金活動、啓発活動、配分事業を行いました。

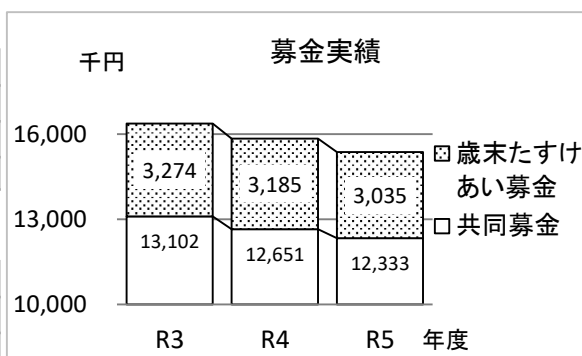
戸別募金は丁寧に依頼を継続し、校区に出向いての説明を積極的行いました。職域募金も継続的に依頼しましたが、大きく新規開拓はできませんでした。継続的に啓発活動は行っていますが、募金額の増加にはつながりませんでした。

・募金実績

募金種別	共同募金	歳末たすけあい募金
期間	10/1～3/31	12/1～12/31
目標金額	15,550,000	3,775,000
募金金額	12,333,396	3,034,987

・配分実績（新居浜市の地域配分）

募金種別	共同募金	歳末たすけあい募金
配分団体・事業数	21	18
配分金額	4,863,151	3,021,253



(4) 民生児童委員協議会連携推進事業

会議への参加・協力により連携を行うとともに、見守り推進員との連携を促進し、連絡調整を行いました。

会議への参加を継続し、顔の見える関係づくりに努めました。民生児童委員協議会総会にて、社協活動の周知と理解を促進する研修会を実施しました。また、独居高齢者見守り推進事業の再確認にあたり、情報共有を図りました。

(5) 福祉施設協議会運営事業

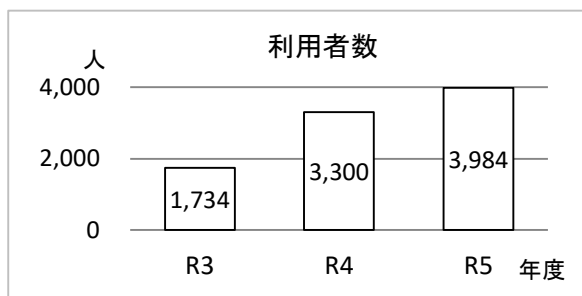
市内福祉施設の情報交換や相互連携の支援を行いました。

施設のニーズに応じて、定例会の他に市危機管理課と災害についての勉強会を開催し情報共有、意見交換を行いました。ウェルフェアバザールは、ポスターの掲示や新たに4施設が参加したことから集客増につながりました。研修会は、新任者・中堅者ともに「基礎を学ぶ」ことを目的に接遇、アンガーマネジメントについて開催しました。

(6) 地域福祉バス運行事業

高齢者福祉センター利用者の送迎を行うとともに、福祉団体の研修等で有効活用しました。

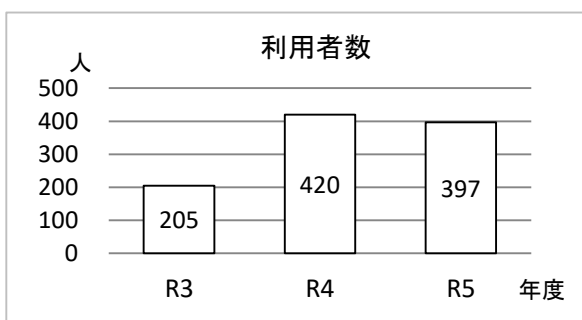
感染対策の緩和を順次行いながら安心・安全な運行を行いました。多くの団体から利用希望をいただきましたが、車両の老朽化、運転士不足のため1台しか運行できず、希望に沿うことができませんでした。また、新車購入に向け、共同募金配分金助成申請を行い、助成を受けることになりました。



(7) 地域福祉バス運行事業（別子校区）

生き生きデイサービス及び分館の利活用日に送迎しました。また、地域住民の社会参加を促進する活動に利用しました。

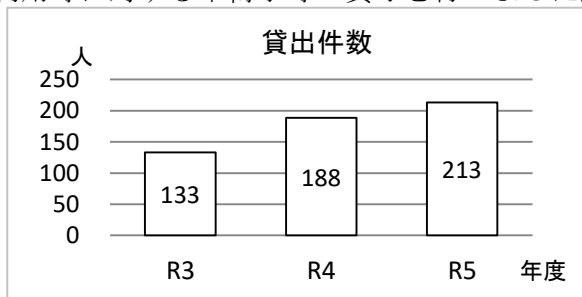
運転業務の委託方法の概要について検討しました。



(8) 福祉用具貸与事業

施設入所者の一時帰宅や介護認定申請中の利用等に対する車椅子等の貸与を行いました。

車いすの正しい使用方法や利用期間の周知を行いながら貸出することができました。点検、整備を定期的に行い安心・安全に使用できるように努めました。また、車いすの必要台数の再確認、申請書の見直しを行いました。今年度の貸出件数は200件を超え、コロナ禍前と同程度となりました。

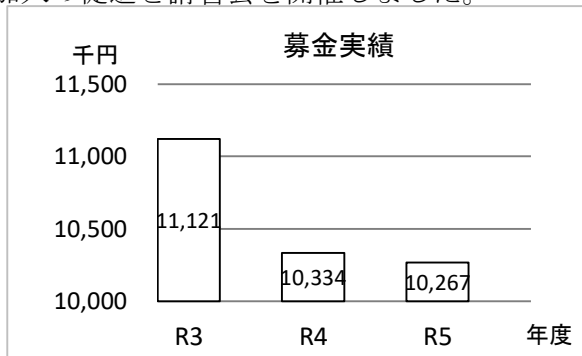


(9) 日本赤十字社愛媛県支部新居浜市地区運営事業

赤十字活動の周知を行い、日本赤十字会員加入の促進と講習会を開催しました。

各講習会のチラシを作成し、寄付控除の説明をホームページに掲載しました。

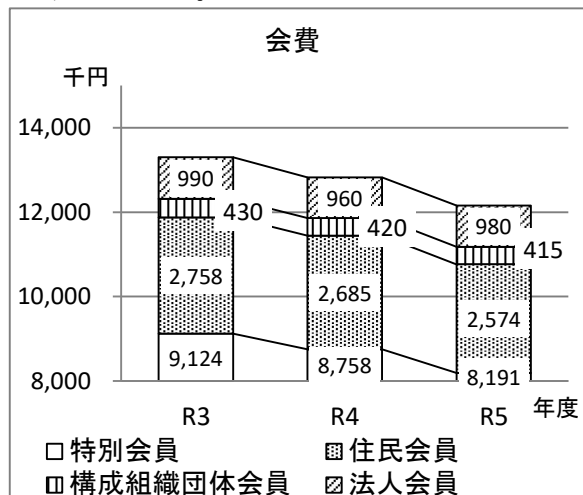
総合福祉センターで、児童の救急法講習会を実施しました。



(10) 会員制度啓発推進事業

社協会員の適正な管理運営と会員制度の啓発を行いました。

依頼状をより分かりやすくするため、写真や図を用いた内容に変更しました。協力者(お世話人等)への依頼時に、会費の使途や必要性をわかりやすく広報しましたが、加入者は減少傾向にあります。特別会員の表札作成は、支部連絡協議会内で協議し、令和5年度をもって廃止としました。

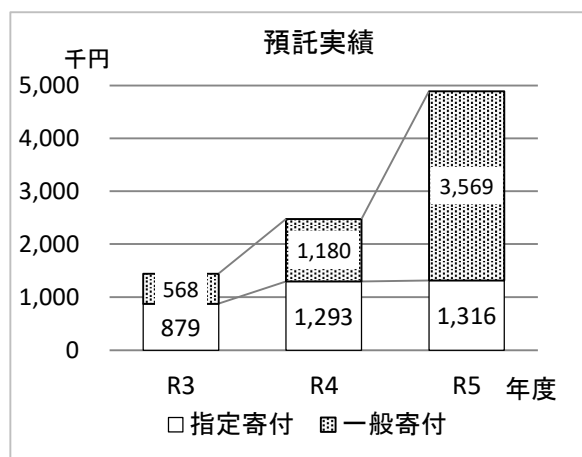


(11) まごころ銀行の運営

寄付を預託し、福祉サービス等の各種事業へ活用しました。

寄付の依頼チラシを作成し、各団体へ配布しました。こども食堂支援募金の配分方法を決定しました。企業からの大口の寄付がありました。

地元金融機関等4行と市と協定を締結し、遺贈寄付ができる仕組みができました。

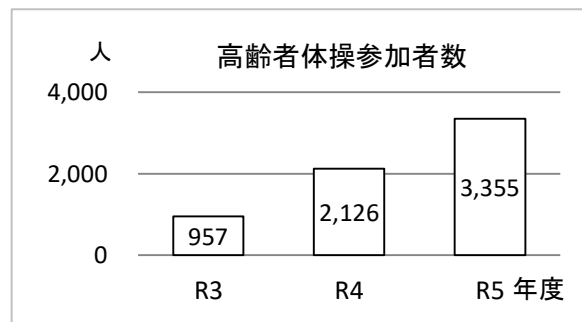
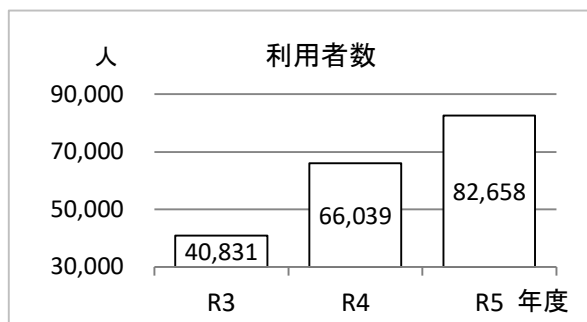


(12) 総合福祉センター（本館）管理運営事業

安心安全な施設運営を行い、地域福祉の拠点施設として情報提供を総合的に実施しました。

地域情報の掲示板を設置しました。健康体操の広報を行い、利用者への周知を図りました。

利用者が快適に過ごせるよう、管理業者と設備の修繕予定を再確認し、共有しました。



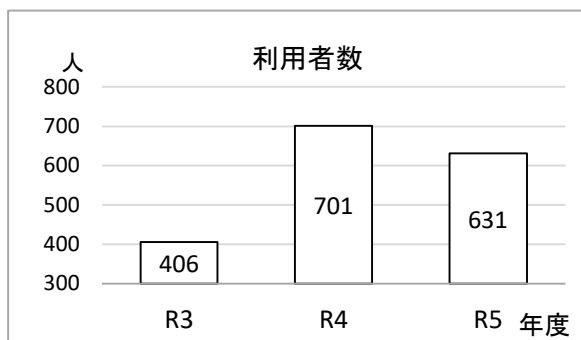
(13) 総合福祉センター（別子山分館）管理運営事業

適切な管理運営を行い、住民主体の福祉活動拠点として、地域住民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図りました。

関係人口創出事業は、十全看護専門学校と本会児童施設課との連携により実施しました。

施設紹介の資料を作成しました。

別子校区に居住している住民が減少したことにより、施設の利用者数が減少しました。



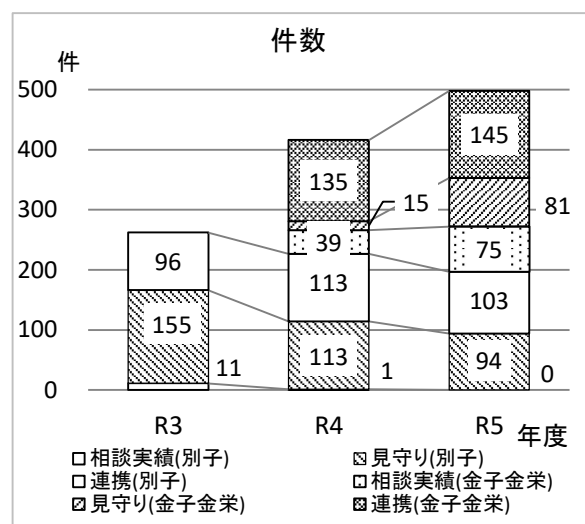
(14) 地域包括支援センター協力機関業務

高齢者の相談支援を実施しました。地域ケアネットワーク推進協議会（月1回）を開催しました。

【別子校区】関係機関等と「地域ケア会議」を2回実施しました。

【金子・金栄校区】

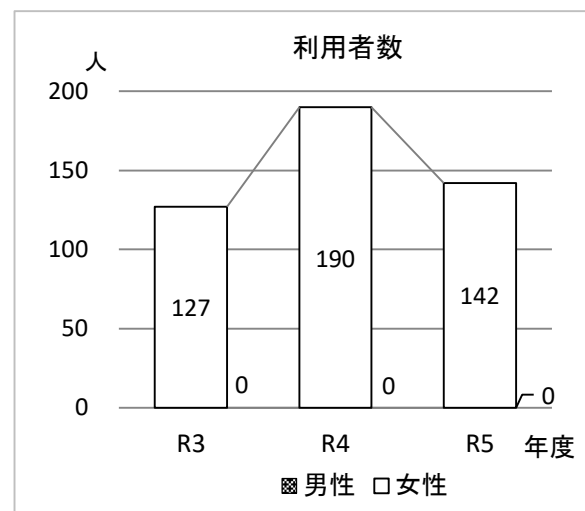
支部関係、包括支援センターの会議や各自治会のサロンに積極的に参加したことによってブランチの認知度が高まり、市民、民生児童委員、見守り推進員の方々から多くの相談を受け、個々に応じた対応を行うとともに適切なサービスにつなげ、課題解決を図ることができました。



(15) 生き生きデイサービス事業（別子校区）

別子校区の高齢者の自立生活の助長、社会的孤独の解消、心身機能の維持向上等を目的とした内容を実施（月2回）しました。

新型コロナウイルス感染症対策を徹底して校区内外の様々な関係機関、団体との交流を行いました。



2 児童福祉の推進

(1) 児童館運営事業

①一般来館児童対象事業

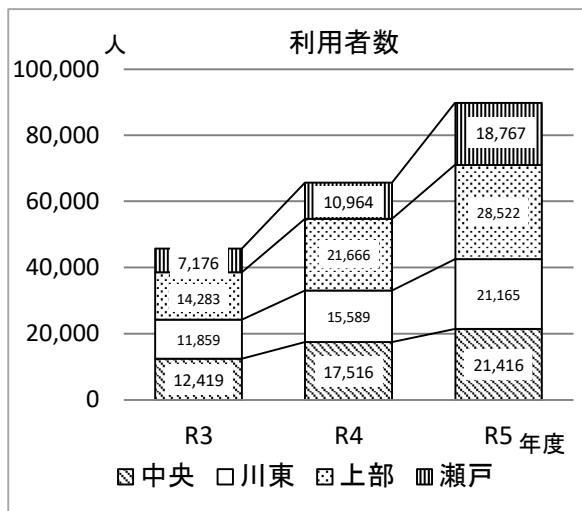
一般来館児童の遊びの指導や援助をしました。季節行事、あそびの広場を開催しました。

施設及び遊具（玩具）の定期的な消毒を継続し、安心して遊べる場所づくりに努めました。

行事等の案内を社協ホームページやLINEを活用して情報提供を行いました。

中高生の協力を得て、学習支援や行事を行い交流ができましたが、孤食対策はできませんでした。

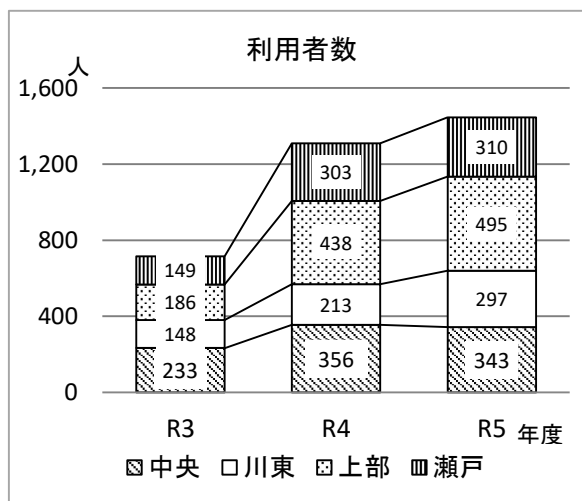
再生可能な絵本やおもちゃの取替事業や、地域のダンボール回収に協力し、SDG s に心がけた活動を行いました。



・あそびの広場実施状況

一般来館児童を対象に週に一度、異年齢で集団遊びや制作等を行う「あそびの広場」を実施し、子ども達に連帯感や仲間意識を育てることに努めました。

月の予定を館だよりやLINE、社協ホームページでお知らせをし、気軽に参加できるようにしました。また、当日参加した人数を見ながら子ども同士が楽しめるようにしました。

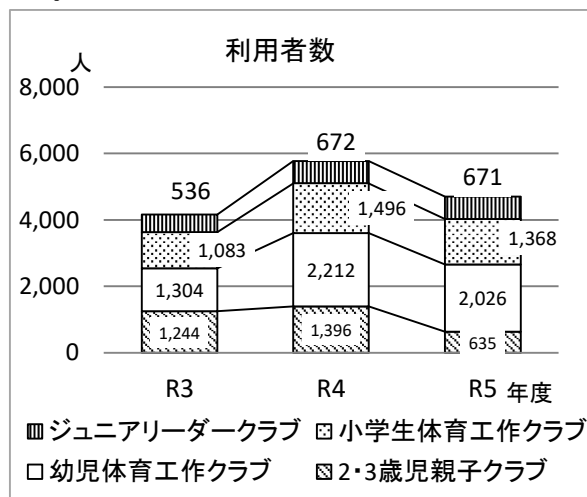


②クラブ活動

発達段階に応じた年齢別クラブを実施しました。

各クラブの状況にあったプログラムの提供として、参加者のニーズに対応した活動を取り入れました。

軽スポーツとして、カローリング等を取り入れ参加者に好評でした。

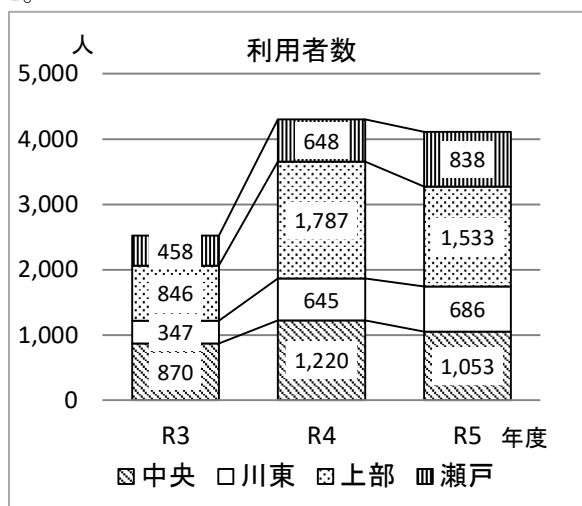


③サークル活動

概ね2歳までの親子を対象に、遊びを通して親子の絆を深めるとともに母親同士の仲間づくり、情報提供等、子育ての支援を行いました。

母親との会話の中から、新しいプログラムを取り入れ、好評でした。

地域の子育て拠点施設の開催日と重ならないように曜日や時間を設定し、利用者に案内しました。



地域組織活動の育成、児童健全育成相談事業、子どもボランティア育成支援活動、豊かな文化の伝達や児童文化の提供を行いました。

相談事業は日常会話から相談しやすい雰囲気で行い、内容によっては専門機関につなぎました。ボランティア育成活動は行事を通じて協力を得ました。文化の伝達は日本古来の遊びを伝えていきました。

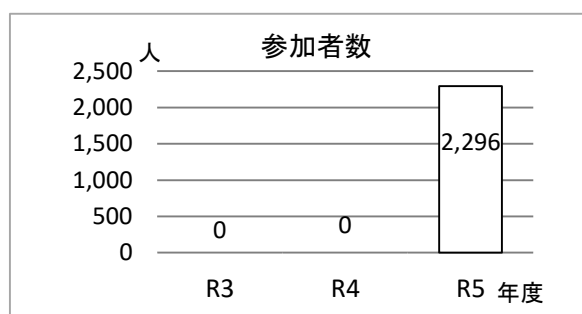
(2) 児童健全育成事業

①にいはまやんちゃKIDS

参加者が楽しめるゲームを提供することができました。

商工会青年部と同時開催により、多くの利用がありました。協力団体との連絡調整等の課題もみつかりました。

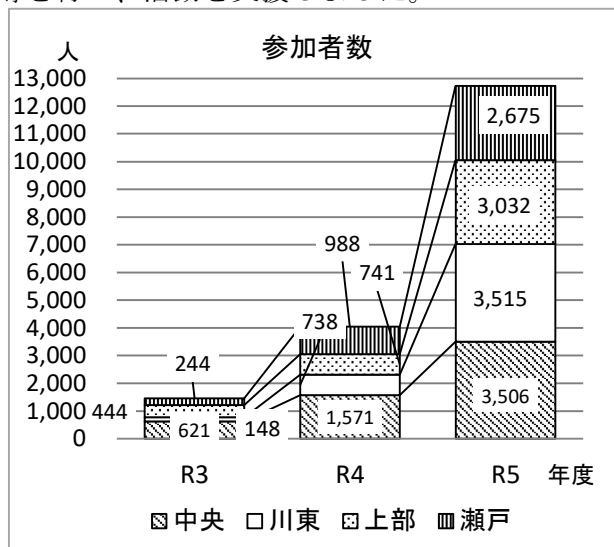
会場内でのスペースが取れず、子育て支援拠点施設へ参加依頼ができませんでした。



②出前児童館

団体の依頼により地域で遊びの提供や指導を行い、活動を支援しました。

各種団体にチラシの配布や説明に行き、依頼が増えました。
子育て応援フェスタは主催者の開催中止により交流できませんでした。



③子育てサロンへの協力

地域の子育てサロンに協力して、情報を共有し、子育て家庭を支援しました。

各サロンに出向き遊びの提供ができました。また、指導だけでなくサポートを行った結果、主催者との良好な関係が向上しました。

④配慮が必要な児童への支援

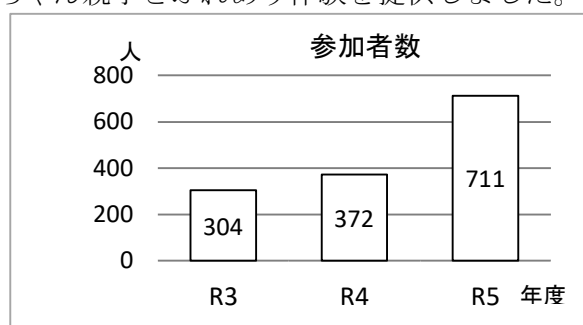
発達や家庭環境に配慮が必要な児童に、関係機関と協力して継続的に支援しました。

子ども同士が自然体で遊べるよう仲介に入り、和やかな雰囲気づくりができました。
気になる子どもには、はげみ園に相談し、連携を図りました。また、放課後等デイサービス施設などの子ども達の利用もありました。
虐待等の発見はありませんでしたが、不登校児童の支援を行いました。

⑤いのちの授業

地域関係者の協力により、中学3年生が赤ちゃん親子とふれあう体験を提供しました。

中学校5校で実施することができました。
感染症等が心配される中、母子の参加協力も多くあり実施ができました。



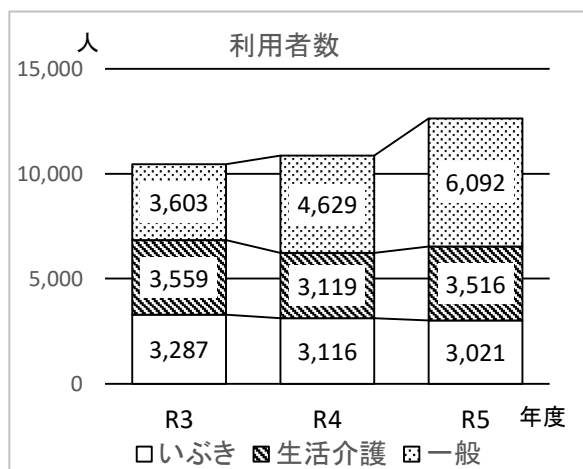
3 障がい者福祉の推進

(1) 障がい者福祉センター運営事業

障がい者に日常の場を提供し、教養の向上、社会参加、レクリエーションを供与し、福祉の増進を図りました。

障がい者団体に対しアンケートを実施するとともに、障がい者と行政との懇談会を開催し課題を共有しました。各事業や行事を概ねコロナ前の状態で実施することができ、センターの利用人数も増加しました。地域の社協支部や団体との交流事業も復活し、理解促進が図られました。

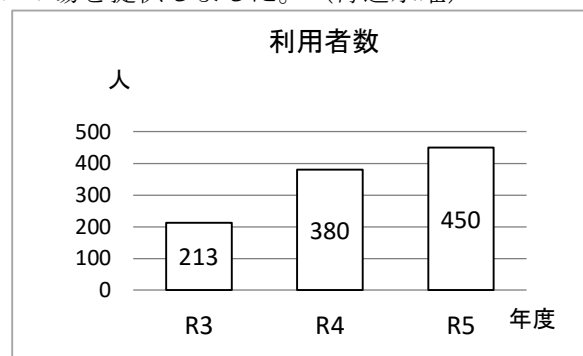
福祉避難所開設訓練は、支援者、障がい者参加のもと2回開催し、防災士の指導により全職員が伝達訓練、マニュアルや備品の確認、設営等を行いスキルアップを図りました。



(2) 障がい者サロン事業

仲間作りや情報共有などのコミュニケーションの場を提供しました。（毎週水曜）

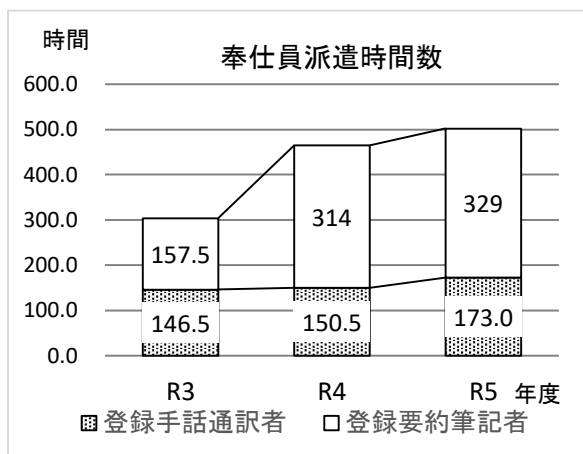
ボランティアセンターや市の出前講座等を利用してサロンのメニューを増やすことができました。サロン参加者で意見を出し合い、野外活動も活発に実施できました。



(3) 障がい者在宅福祉対策事業

意思疎通支援事業、生活訓練事業、身体障がい者スポーツ教室等開催事業・大会開催事業、リフト付き福祉バス運行事業を実施しました。

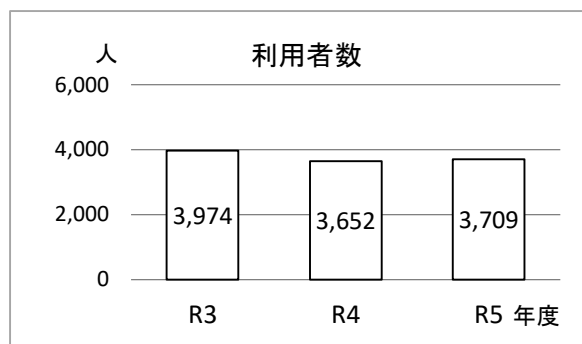
各行事等の復活に伴い意思疎通支援者の派遣時間も増加しました。また、病院での通訳や研修付添など個人の希望にきめ細かく対応しました。文化、スポーツ教室は、スポーツ関連団体より新しい指導者の協力を得て、安定的に開催することができました。



内容	回数	人数	内容
生活訓練事業	18	271	防災教室、料理教室、生け花教室、文芸教室
身体障がい者スポーツ教室等開催事業	23	400	レクリエーション教室、水泳教室、バドミントン教室、軽体操教室
身体障がい者スポーツ大会開催事業	2	42	ボッチャ大会、バドミントン大会

リフト付き福祉バス運行事業

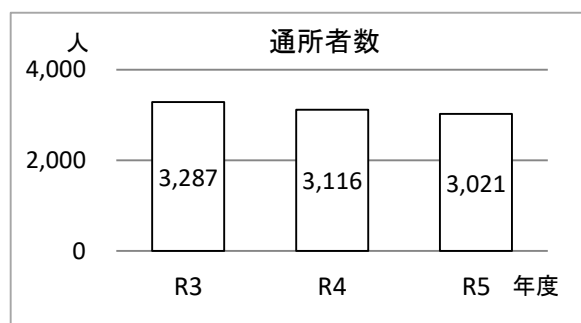
障がい者の社会参加促進のための交通手段として安全に運行しました。



(4) 地域活動支援センターⅢ型「いぶき」運営事業

通所により自立更生に必要な訓練及び、職業的な作業等による自主製品作り、企業の受託や行事を通して、社会参加を促進しました。

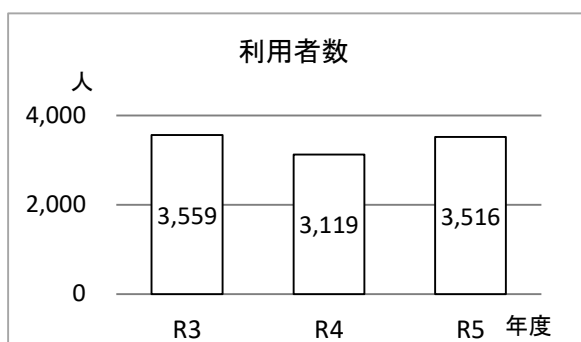
特別支援学校の事業所説明会へ出席をするなど利用者増に向けて働きかけましたが、新規利用者の獲得はできませんでした。年3回地域交流会を実施し、地域住民との交流を深めることができました。その他、校区バザーやウエルフェアバザールにも参加し、利用者が市民の方と交流できる場を提供し、社会参加の促進を図ることができました。



(5) 生活介護事業

障がい者の身体状況や環境に応じて、自立促進、生活の質の向上を図るため、日常生活上の介護や訓練及び創作活動を実施しました。

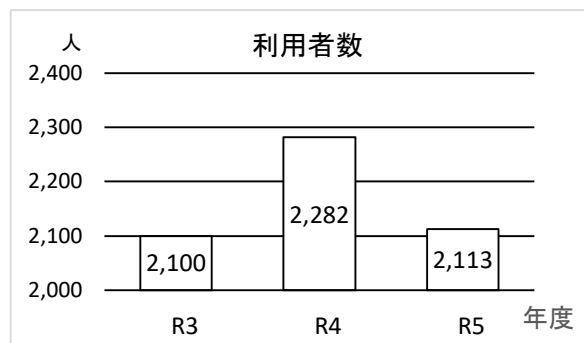
専門性の高い研修を受講し、特に強度行動障害のある方への支援内容を充実することができ、サービスの質の向上につながりました。また、全員が同じ研修を受講することでリスクマネジメントについて共通意識を持ち、チームワークづくりの重要性を感じることができました。



(6) 児童発達支援事業はげみ園

未就学の障がい児に対し、早期から特性に合わせた専門療育を実施しました。

年間8回の外部研修と月1回の事業所内研修を実施し、サービスの質の向上に努めました。1日の平均利用者数は8.8名でした。今年度、災害・感染症発生時の事業継続計画を策定しました。



(7) 障がい者居宅介護等事業

居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護を実施しました。

①居宅介護

障がいがある方に対して身体状況等に応じた利用者本位の計画を作成し、身体介護、家事援助等生活全般にわたる援助を行い、地域生活を支援しました。

②重度訪問介護

重度の障がいがあり常時介護を要する方に対して、利用者本位の計画を作成し、介護、家事等の生活全般にわたる援助や外出時における移動中の介護を行い、在宅生活を支援する事業ですが、利用はありませんでした。

③行動援護

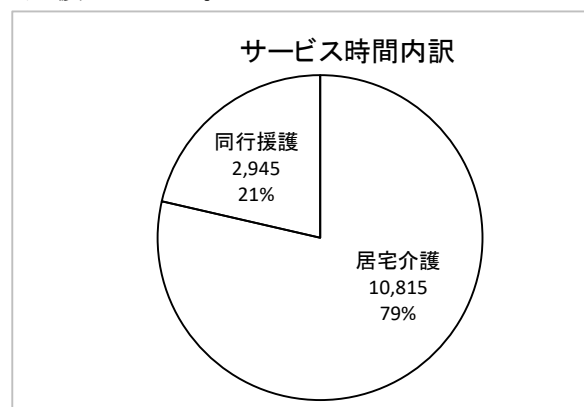
障がいがあることで行動に困難を有する方に対して、利用者本位の計画を作成し、行動する際に生じる危険を回避するための援護等を行い、社会参加と地域生活を支援する事業ですが、利用はありませんでした。

④同行援護

視覚障がいのため移動が困難な方に対して、利用者本位の計画を作成し、外出時に同行して移動の援護等を行い、社会参加と地域生活を支援しました。

介護に必要な知識や技術、コミュニケーション能力の向上を図るための研修を受講し、全体的に職員の質の向上につなげることができました。

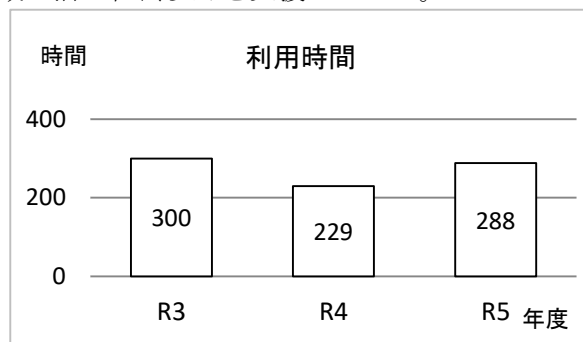
継続的な広報活動を行ってきましたが、職員の増員にはつながっておらず、困難事例の利用者や新規利用者の受け入れを十分に行うことができませんでした。



(8) 障がい者等移動支援事業

屋外の移動困難な障がい者に外出援助し、地域生活と社会参加を支援しました。

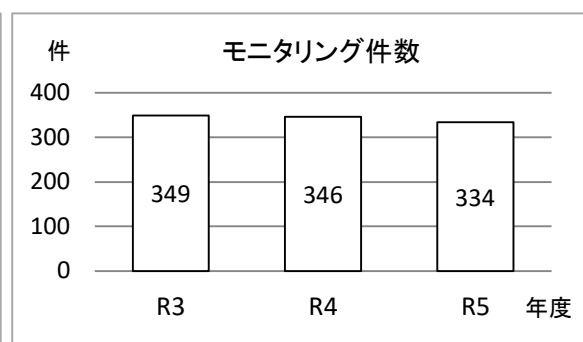
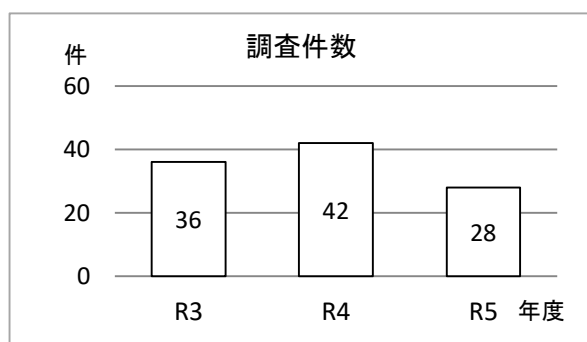
散歩や買い物、外出の機会を持つことで、家族以外の人達とコミュニケーションを取る機会を提供できました。また、自分で行きたい場所や、欲しい物を考えることで、自我を芽生えさせ意欲の促進につなげることができました。安心安全には常に気を使い、事故なく支援を遂行し、利用者の満足にもつながりました。



(9) 相談支援事業

障がい者の自立に向けて課題の解決や適切なサービス利用に向けて相談支援を実施しました。

自立支援協議会相談支援部会では、2か月毎に相談支援事業所間の困りごとや課題を共有し、年1回の講演会、12/2～4の作品展を実施しました。研修は相談員2名が地域リーダー研修や医療的ケア児支援者養成研修等を受講し、資質向上を図りました。



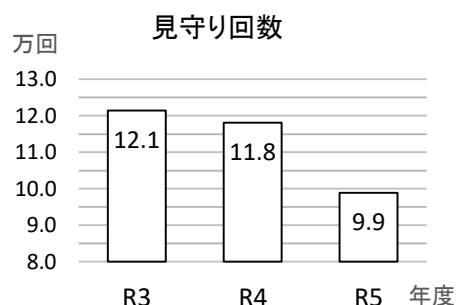
4 高齢者福祉の推進

(1) 独居高齢者見守り推進事業

在宅独居高齢者が安心して生活ができるよう、地域関係者の参加・協力で、見守り推進員による安否確認を実施しました。

見守り推進員の一斉改選では、数か所で後任者が決まりませんでした。新たに開催した担い手発掘のための講座から委嘱につなげることができました。

事業内容・対象者の見直し等を行った結果、対象者減少による財源不足や要否判定の校区間格差などの新たな課題に対しても、協議を行いました。



見守り推進員	見守り対象者
273	2,658

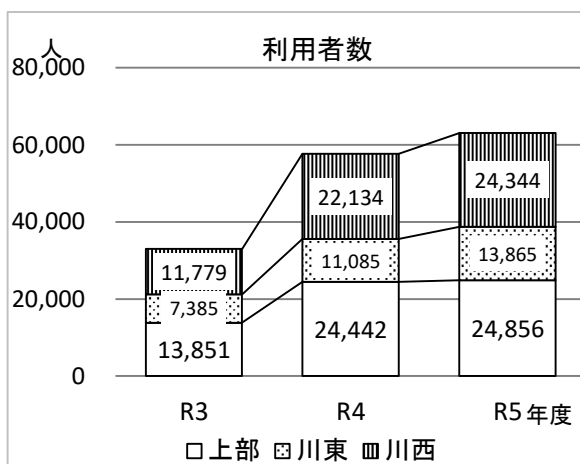
令和5年4月1日現在

(2) 高齢者福祉センター運営事業

① 高齢者福祉センターの管理運営

健康長寿のまちづくりを実現するため、生きがい創出、健康づくり、生活支援を行う拠点として、高齢者福祉の増進を図りました。

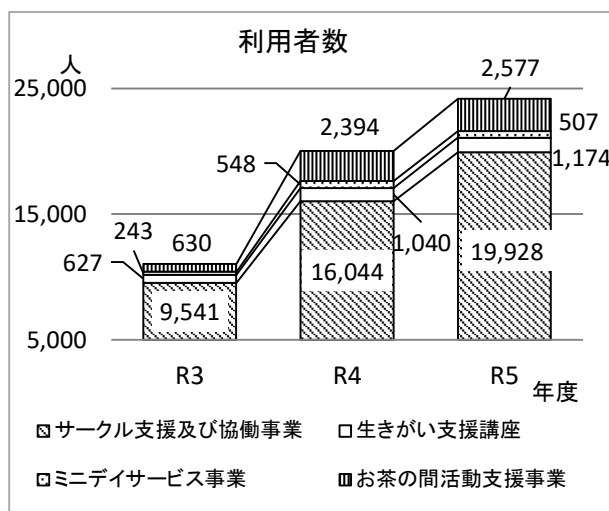
感染症対策を徹底し、順次行事を再開しました。コロナ禍により減少した利用者の増加を図るため、事業の様子は積極的にホームページに掲載し、出張サロンや見守り、防災会など地域の会議の際には、センターだよりを用いてPRを行いました。



②生きがい創出事業

サークル支援、講座により、仲間づくり・趣味づくり・社会参加をとおして、豊かな生活を送れるよう活力を創出しました。

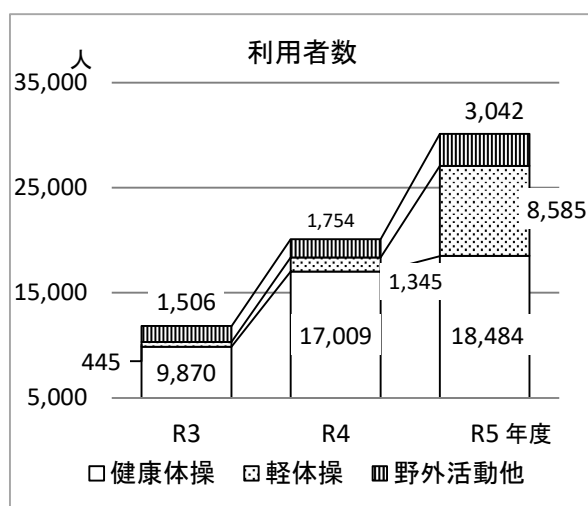
高齢者が関心を持って参加でき、安心・安全な生活につながる様々な講座や教室、レクリエーションを提供し、利用者の生きがいづくりを支援しました。また、地域に出向く出張サロンでは、メニュー表を作成しPRしたことで新規4件の依頼があり、計12回の事業を実施しました。



③健康づくり事業

体操や健康教室の知識供与、相談・保健指導等で、健康維持・体力増進を図り、日常生活を送れるよう安全・安心を創出しました。

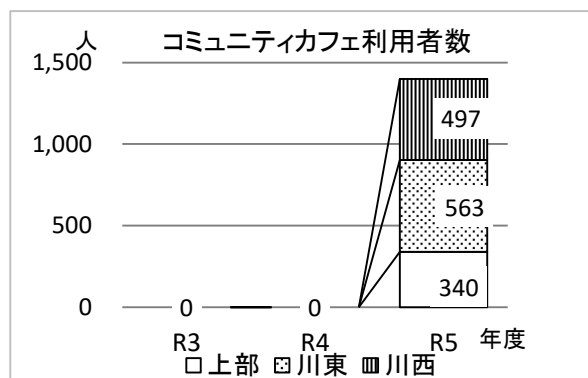
毎朝の健康体操では、利用者が楽しく健康づくりが行えるよう、ストレッチやリズム体操、ラバーバンドなど豊富なメニューを提供しました。また、各種講座、教室等を開催し、利用者の健康保持を行うとともに、介護予防、生活習慣病予防や認知症について等の普及啓発を行いました。



④生活支援事業

生活相談・指導で生活課題の早期発見と予防で、生活の安定を図り、関係機関と連携して生きる力を創出しました。

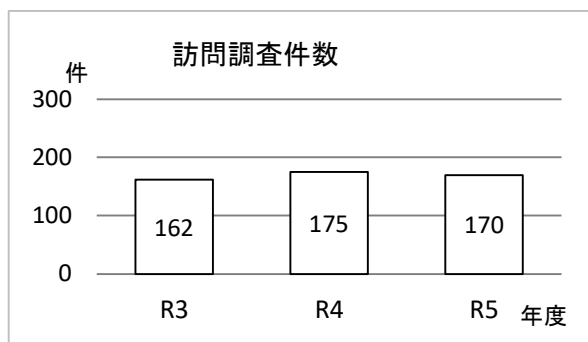
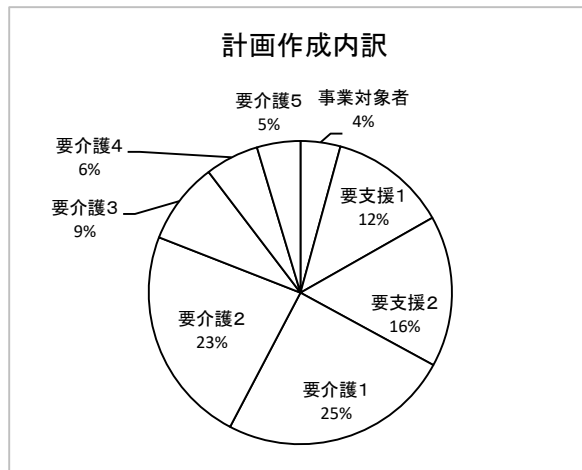
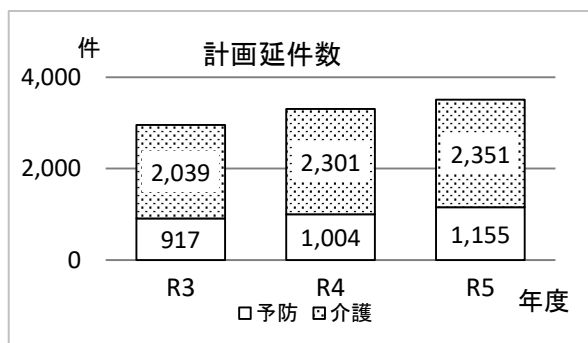
地域における生活支援の拠点として、高齢者の居場所づくり、交流の場づくりを行うため「コミュニティカフェ」を入浴事業に代わる新たな事業として開始しました。利用者との対話が増えたことにより、生活相談・支援の機能強化につながりました。



(3) 居宅介護支援事業

アセスメントを行い、利用者本位の計画を作成し、計画に沿ったサービスを提供しました。

包括・ブランチ・医療関係や利用者の紹介、事業所の紹介等相談件数が増加しました。また、当事者、家族の意向に寄り添い各関連機関と連携し、地域で利用者を支えていくことができました。災害時支援台帳作成は、職員全員が危機管理を持ち、利用者に対しての必要なサービスが安定的・継続的に提供できる体制の構築に取り組みました。

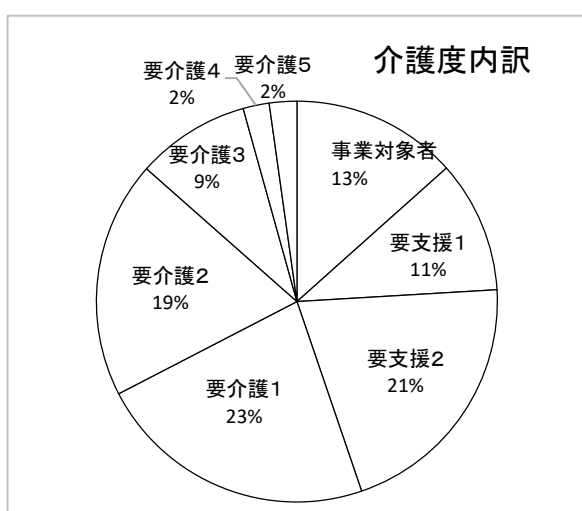
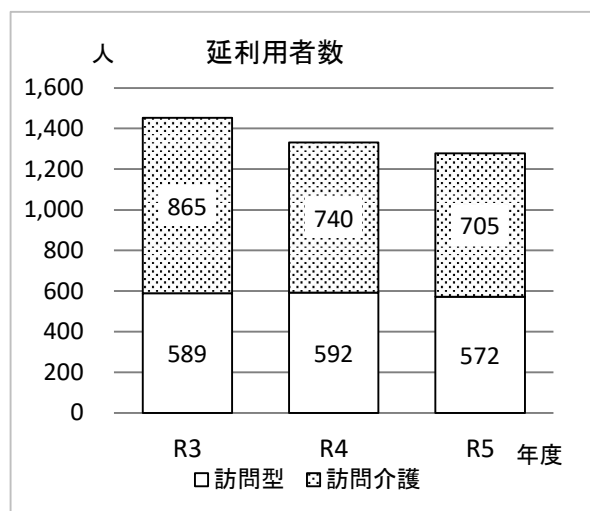


(4) 訪問介護事業

利用者のニーズに沿った訪問介護計画を作成し、居宅においてサービスを提供しました。

在宅の要介護状態にある利用者の心身の特性を踏まえて、その能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、身体介護と生活援助のサービス提供を行いました。

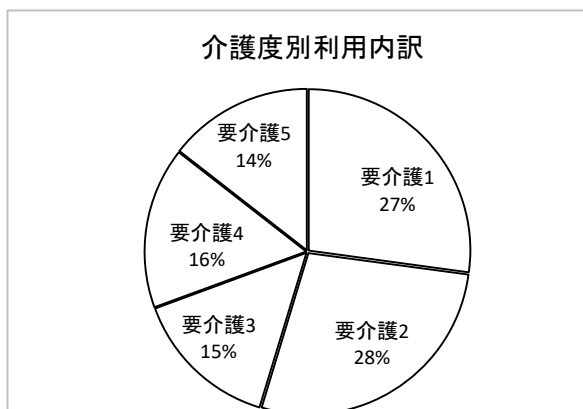
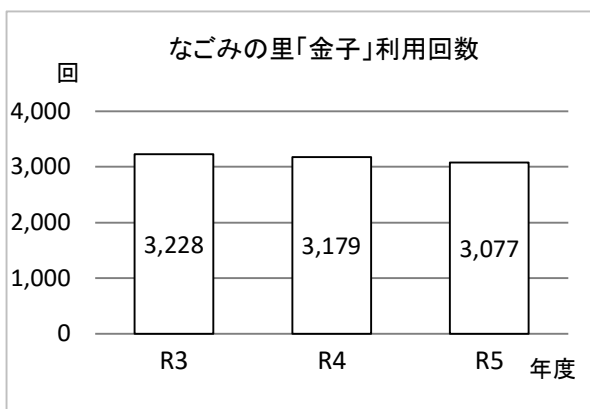
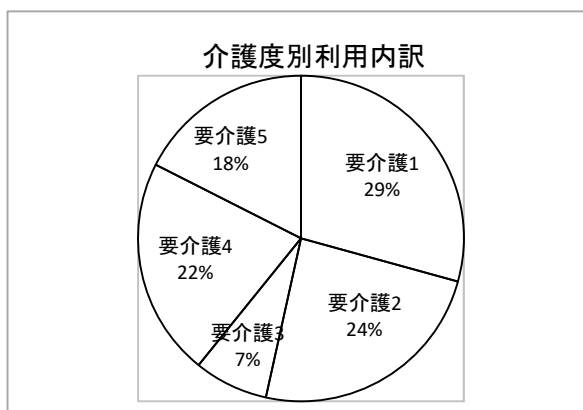
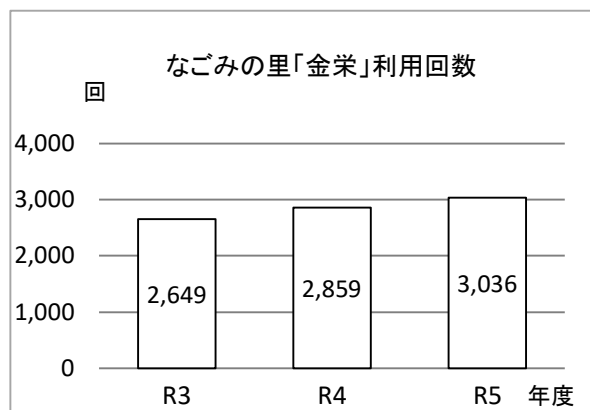
ヘルパーの資質の向上にあたっては、サービス提供責任者会議やヘルパー全体会議等を定期的に事業所内研修として実施するとともに、他機関が実施する研修会にも参加し、サービス提供の向上につなげました。また、コロナ禍での介護サービスの提供が途切れないよう、感染防止対策を講じながらサービスの継続提供を行いました。



(5) 認知症対応型通所介護事業

認知症の方が可能な限り居宅での日常生活が送れるよう、入浴、食事介護や機能訓練を実施し、家族の身体的負担を軽減しました。

支援内容や1日の利用者数は、4月から10月にかけては事業計画以上の運営が行えましたが、11月以降利用者の施設入所・長期のショートステイ利用・入院・死亡が重なり、新規利用の呼びかけや案内を行う努力は行いましたが、目標数値を上回ることができない日が増加しました。



(6) 訪問介護事業所職員連絡会運営事業

『「気付き」を活かせるヘルパーに』、『コミュニケーションスキルアップ』、『緊急時対応について』、『モチベーションアップ』の研修会、管理者・サービス提供責任者向けに『BCP作成講習会』を実施しました。参加者も増えてきており、連絡会としては意義深いものとなりました。

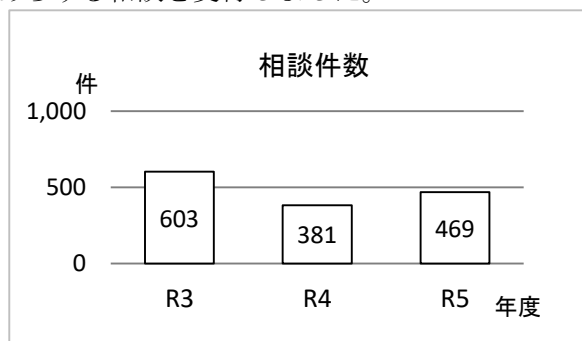
回数	参加人数	研修内容
7	284	コミュニケーションスキルアップ、緊急時の対応、モチベーションアップ、BCP作成他

5 権利擁護の推進

(1) くらしの総合相談・支援事業

専門機関や相談支援員が中心となり、日常のあらゆる相談を受付しました。

社協職員と関係機関の連携強化に努め、あらゆる生活上の相談に対応しました。司法書士等の専門職と連携したことで専門性の高い困難ケースにも対応することができました。

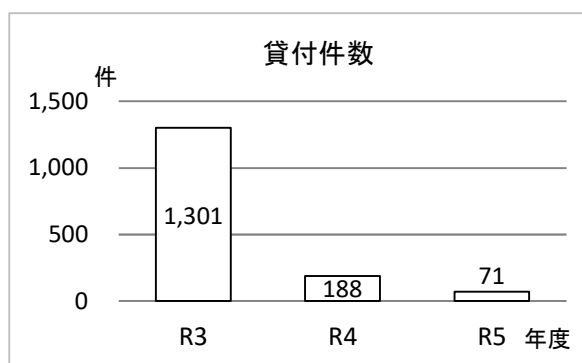


相談内容	相談員	相談日	開設日	件数
一般相談	自立相談支援員	毎日	243	430
登記、遺言、土地家屋調査相談	公証人、司法書士、土地家屋調査士	毎月1回	12	29
社会保険相談	社会保険労務士	毎月1回	12	3
精神障がい者家族相談	新居浜家族会会員	毎月1回	12	7
		合計	279	469

(2) 生活福祉資金貸付事業

低所得者や高齢者、障がい者の生活を経済的に支え、在宅福祉及び社会参加促進を図り、生活改善を支援しました。

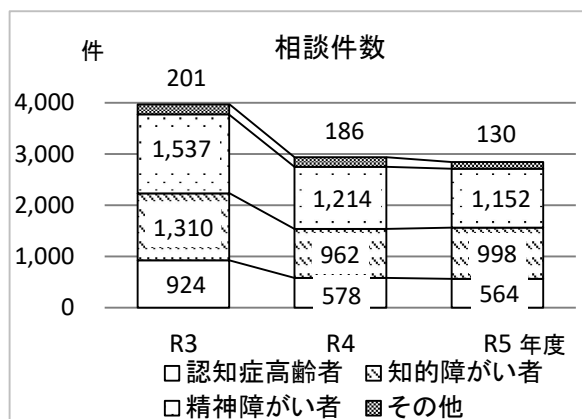
県社協や行政、生活困窮者自立支援事業等の関係機関と連携し、世帯自立に向けて効果的な貸付を行いました。また、貸付後も関係機関とともに相談支援を継続し、償還を含めた家計改善の支援を行いました。



(3) 福祉サービス利用援助事業

判断能力が不十分な方が在宅で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助や金銭管理等を実施しました。

多数の利用希望がありましたが、新規契約には至りませんでした。既契約者については50名の内4名が本人申し出により終了し、合計46名の利用者の日常生活の自立支援に努めました。利用者に寄り添いながら、安定して自立した生活が送れるように適切な助言・支援を実施しました。



(4) 法人後見事業

被後見人等身上監護、財産管理を適正に行い、相続関係、施設入所、福祉サービス利用契約の手続きを実施しました。

成年後見支援センターの構成団体として地域連携ネットワークづくりに参画しました。法人後見事業においては、13名のうち後見1名、保佐2名が死亡により終了、保佐1名を新規受任し、合計11名の身上監護と財産管理を行いました。

・受任状況（令和6年3月31日現在）

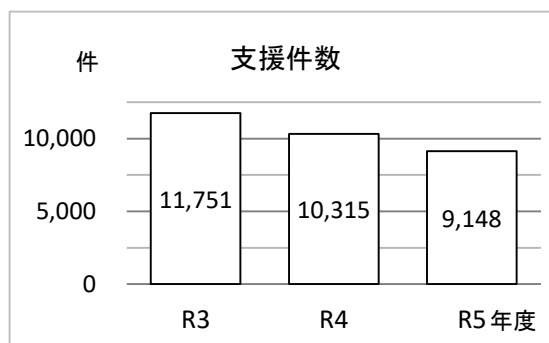
区分	認知症 高齢者	知的障 がい者	精神障 がい者	合計
受任者数	4	5	2	11

区分	後見	保佐	補助	合計
受任者数	7	4	0	11

(5) 生活困窮者自立支援事業

経済的困窮や社会的孤立など複合的な生活困難を抱える人々に、寄り添い型支援を実施しました。

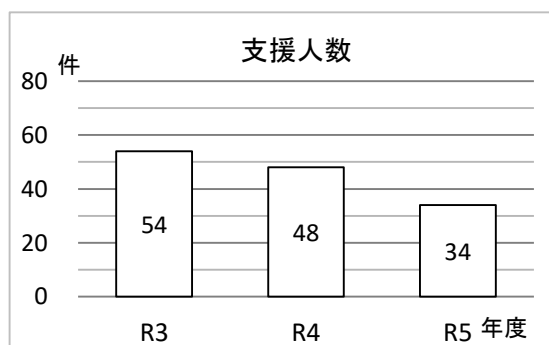
様々な課題を抱えた相談者に対し、関係機関と連携しながら伴走支援を実施し、課題解決に向けて計画的に支援を実施しました。また、複合的な課題を抱えた困難なケースに関しては、担当者間で協議・検討を行い課題解決に向けて取り組みましたが、課内での事例検討までには至りませんでした。



(6) 緊急食料等支援事業

緊急的かつ一時的に生活に困窮し、最低限度の生活を維持できなくなる世帯に相談支援、食料や日用品等を支給しました。

食料提供事業者の拡充が図られたことで、対象者に必要な現物を柔軟かつ迅速に支給することができました。社協だよりやホームページを活用して「フードドライブ」の広報を継続的に行いました。



(7) 新居浜を明るくする運動推進事業

犯罪や非行のない安全・安心な地域社会づくりを目的として、保護司会、更生保護女性会等関係機関と連携しました。

犯罪や非行を防止し、安全で安心して暮らすことのできる明るい地域社会づくりを目的として、保護司会、更生保護女性会等関係機関と連携し、運動を展開しました。感染症対策として、大会は規模を縮小して実施しました。

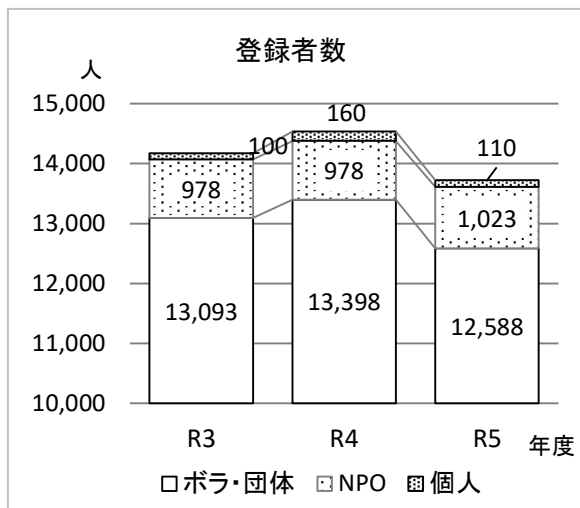
6 ボランティア活動の推進

(1) 福祉ボランティア推進事業

① ボランティア・市民活動センター運営事業

団体及び個人登録し、市民を様々な活動へと繋げ、総合的なボランティア・市民活動推進の場としての役割を担いました。

団体調査を実施し、活動状況や活動内容、抱える課題や支援要望などを把握しました。会員の高齢化や人員確保で悩まれる団体が多かったため、活動促進のための広報に力を入れて、活動の活性化を支援しました。

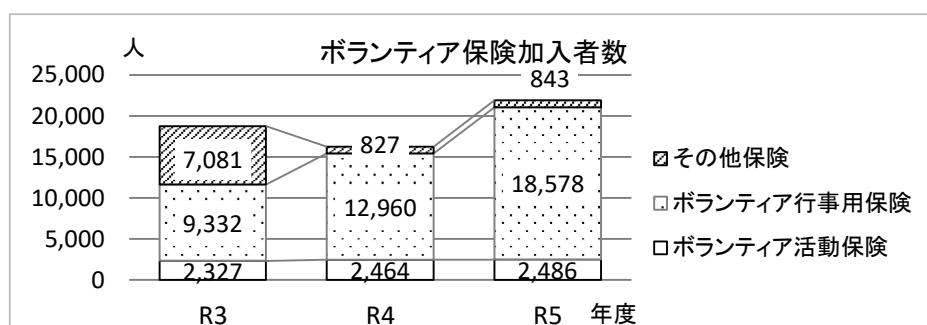
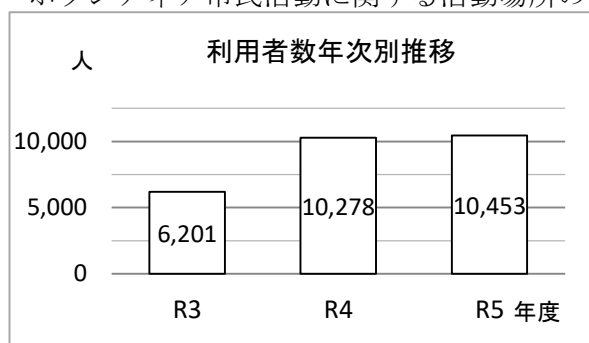


② ボランティア・市民活動に関する相談、援助、指導

ボランティア・市民活動に関する相談に対応し、中間支援を実施しました。

研修会などに参加し、職員の資質向上を図りました。ボランティアでは対応できない多様な相談などについても、社協内部や他機関と相談し、丁寧に対応しました。

- ・ 来所、電話、メール等による相談、援助、指導
実績件数 1,531 件
- ・ ボランティア市民活動に関する活動場所の提供



③ボランティア・市民活動に関する情報提供

市民の自発的な社会参加を促し、個人及び、団体の活動が活発になるように必要な情報を収集、提供しました。

ホームページやSNSによる情報発信を行い、LINE登録者数が約200人増加しました。ボランティア募集情報やイベント情報の発信を重点的に行いました。

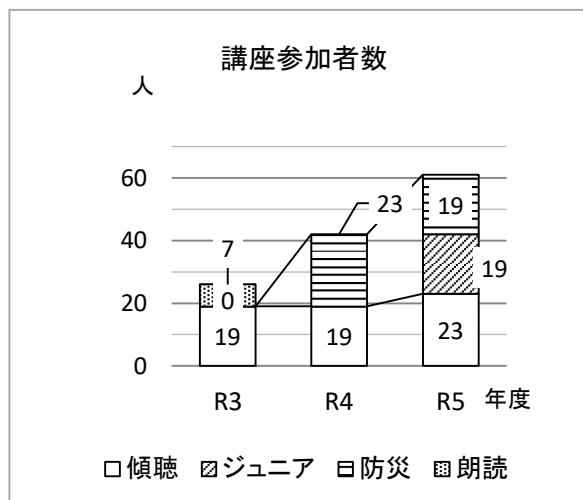
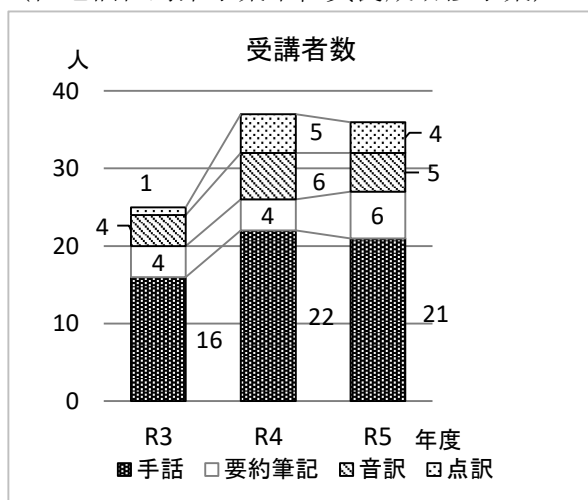
- ・「ボランティアinにいはま」の発行（年12回） 毎月3,900部発行
（令和6年3月号をもって廃刊）
- ・Twitter（ツイッター）、LINE公式アカウントによる情報発信
- ・市報による情報提供（4回）

④ボランティア・市民活動に関する研修

技術ボランティア養成講座、各種講座を実施しました。

動画やSNSによる広報を行うとともに、受講者の声をもとに一部講座の内容や開催の見直しを行いました。ジュニアボランティア養成講座では、修了後も継続的なボランティア活動につなげることができました。

- ・技術ボランティア養成講座
（在宅福祉対策事業奉仕員養成研修事業）
- ・ボランティア講座



⑤その他

ボランティア・市民活動に関する福祉活動資材の整備、貸与、連絡調整を行いました。

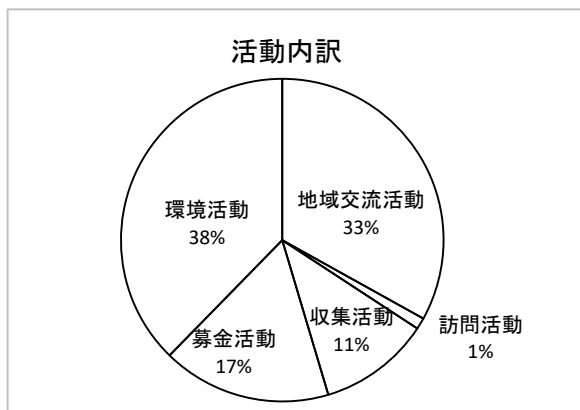
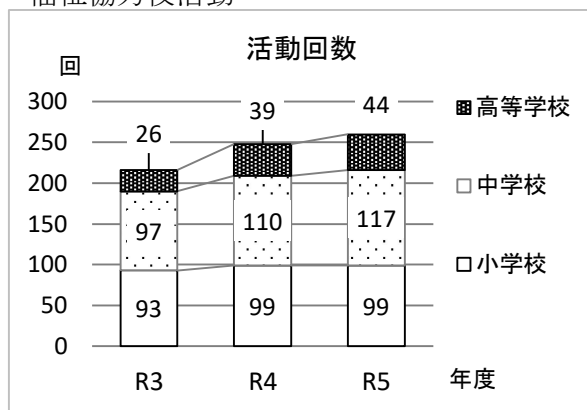
福祉活動資材の貸与、整備を行いました。貸室やロッカー等についても整理整頓を行い、活動しやすい場所の提供に努めました。

（2）福祉教育、生涯福祉学習

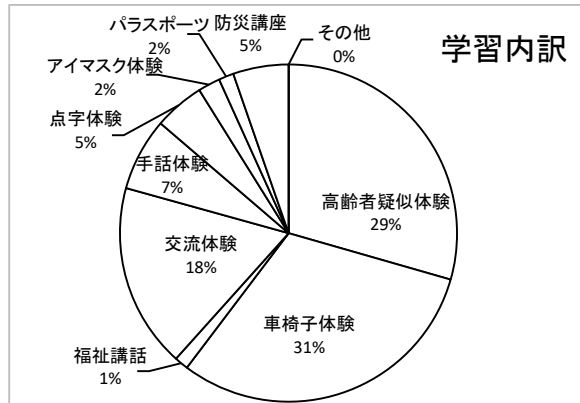
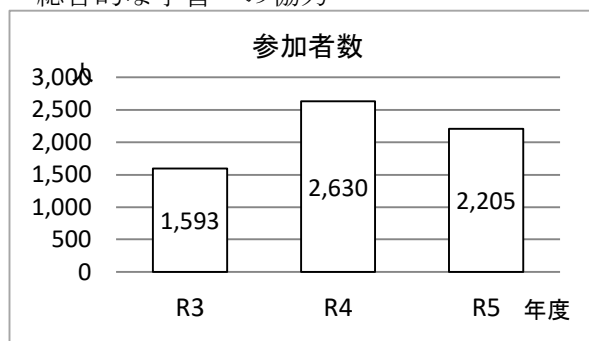
福祉学習の推進及び生涯福祉学習を支援しました。

地域の民生児童委員をはじめ、支部や公民館などに仲介いただき、サポーターの協力を得て実施することができました。

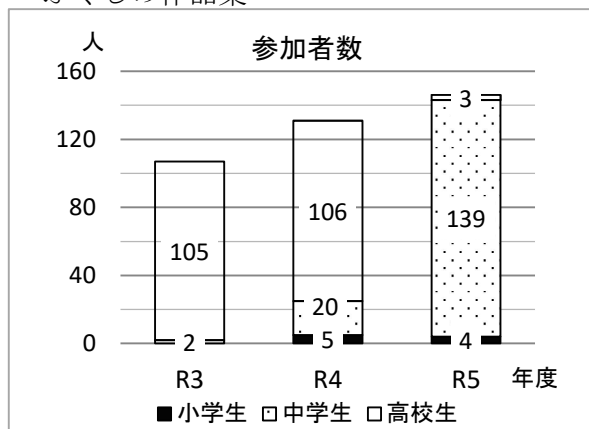
福祉協力校活動



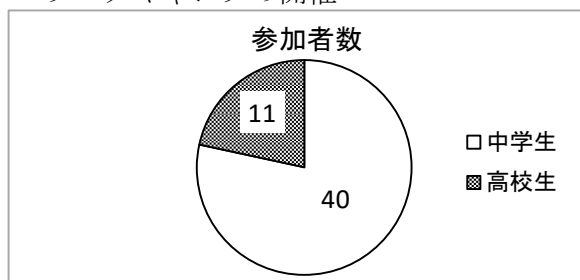
・総合的な学習への協力



・ふくしの作品集



・ワークキャンプの開催



8/1：講義（障がい者・高齢者に関する内容）
 8/2：施設実習
 →23施設で予定していたがコロナにより中止
 8/3：フクシの魅力発見フォーラムに参加

(3) 災害ボランティアセンター設置運営事業

資材管理や災害ボランティアの受付相談、登録、管理を行い、講座を開催。ネットワークを構築し、訓練を実施しました。

災害ボランティアセンター設置訓練はできませんでしたが、災害時職員被害状況確認メール訓練を実施しました。地域支えあい・災害支援ネットワーク会議に参加しながら、職員間での情報共有や、連携会議立ち上げについて協議しました。また、ライオンズクラブ国際協会と災害支援協定を締結しました。

災害ボランティア登録者 38人（男 28人、女 10人） 令和6年3月31日現在

7 社会福祉協議会の運営の強化

(1) 理事会・評議員会の運営

地域福祉を推進する団体としての経営責任を担う理事会、議決機関としての評議員会を開催しました。

理事会を本会運営施設で実施し、施設見学を行いました。評議員会では地域課題を協議して、関係を深めるワークショップを行いました。

種別	回数	延出席者	内容
理事会	6	84	4 3 議案
評議員会	5	117	1 0 議案
監事監査	1	3	令和4年度事業及び決算について

(2) 財務運営、管理

財源（民間財源、公費財源、事業収入財源）を確保し、継続・安定的な経営、会計法令に基づく経理事務を実施しました。

介護事業の経営課題、また基金、積立金、資金の移動のルールについて協議しました。

(3) 人事管理・人財育成

採用・配置、評価、処遇、育成からなる人事管理制度の一体的運営を行いました。

人間力を高めることを目的として、5 S活動を実施しました。
研修の流れを確立するとともに、振り返りの機会を設けました。

(4) 労務管理

働きやすい環境の整備と労働法制を順守し、衛生委員会、健康診断を実施しました。

各課の健康維持の取組を継続し、健康意識を向上させました。衛生委員が主体的に考察して取り組みました。

勤怠、給与にかかるシステムのクラウド化を実施しました。給与等にかかる業務の効率を図ることができました。

(5) 社協発展・強化、その他計画の策定と進行管理

制度、地域生活課題などの外部環境、組織体制、事業推進体制、財務状況などの内部環境をもとに策定し、進行管理を行いました。

事務局会や課間で課題に対する意見交換の機会を増やしました。
相談支援の困難事例、各課の課題、災害関連、5 Sについて、各課職員が協議しました。

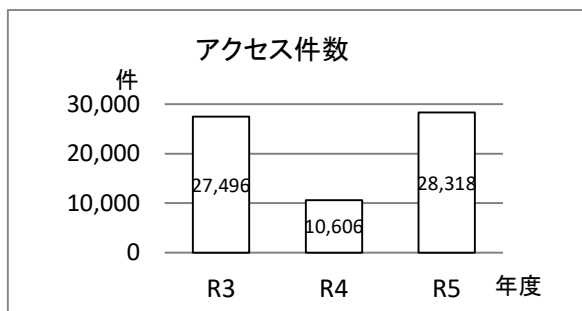
(6) 広報活動・広報戦略

社協だより・ホームページにより地域福祉活動を広報しました。

ホームページの最新情報の更新に努めました。

フェイスブックとの連携により、同時掲載を可能にしました。

「にいはま社協だより」を年4回
(1回あたり約42,000部)発行



ホームページ運営<http://www.n-syakyo.jp/>
※4年度はリニューアル(9月1日)以後のアクセス数